

東名高速道路
厚木～東京間開通
昭和43年4月

県立こども医療センター
昭和45年4月

公害防止条例公布
昭和46年3月

第1次石油危機
昭和48年10月



⑭ 第45、46代知事

つだ ぶんご
津田 文吾

【在任期間】
昭和42年4月23日
～昭和50年4月22日

知事に就任するまで

- 大正7（1918）年に富山県生まれ、東京帝国大学を卒業した後、自治省に入省しました。
- 昭和23（1948）年に神奈川県警公安課長として本県に赴任後、内山岩太郎知事の下で県の財政課長や総務部長などの役職を経て、副知事を務めました。
- 特に、財政課長の時期は、終戦後の戦災や進駐軍の接収により経済復興が進まず、県財政が厳しい状況であったため、緊縮財政を実施して財源の確保に努めたほか、内山知事とともに進駐軍に県の財政状況の説明も行いました。
- 内山知事が引退を表明すると後継者として選挙に立候補し、知事に就任しました。

「福祉優先の豊かな地域社会の実現」を目指して

- 津田知事が就任したころの神奈川県は、工業生産が全国の10%以上を占める地域に発展を遂げた一方、都市化が急速に進んだことで、人口の急増による住宅不足や交通渋滞などの問題や、大気汚染や水質汚濁などの公害が深刻化していました。
- そのため津田知事は、自然の尊重と人間性の回復を基調とした「福祉優先の豊かな地域社会の実現」を目指して政策を推進しました。
- 具体的には、全国で初めて大気汚染・水質汚濁の有害物質排出量の総量を規制する「神奈川県公害防止条例」などを公布し、また、市街化調整区域の大規模開発や、ゴルフ場の新增設を認めないことを原則としました。
- また、全国に先駆けて、こどものための総合医療施設である「こども医療センター」を設立しました。